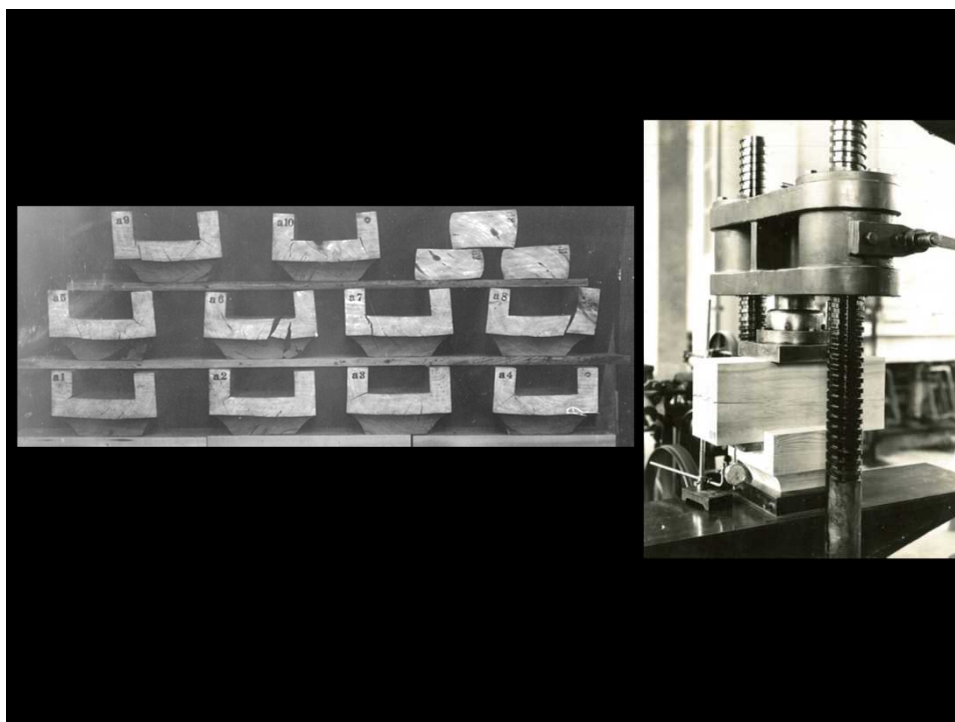
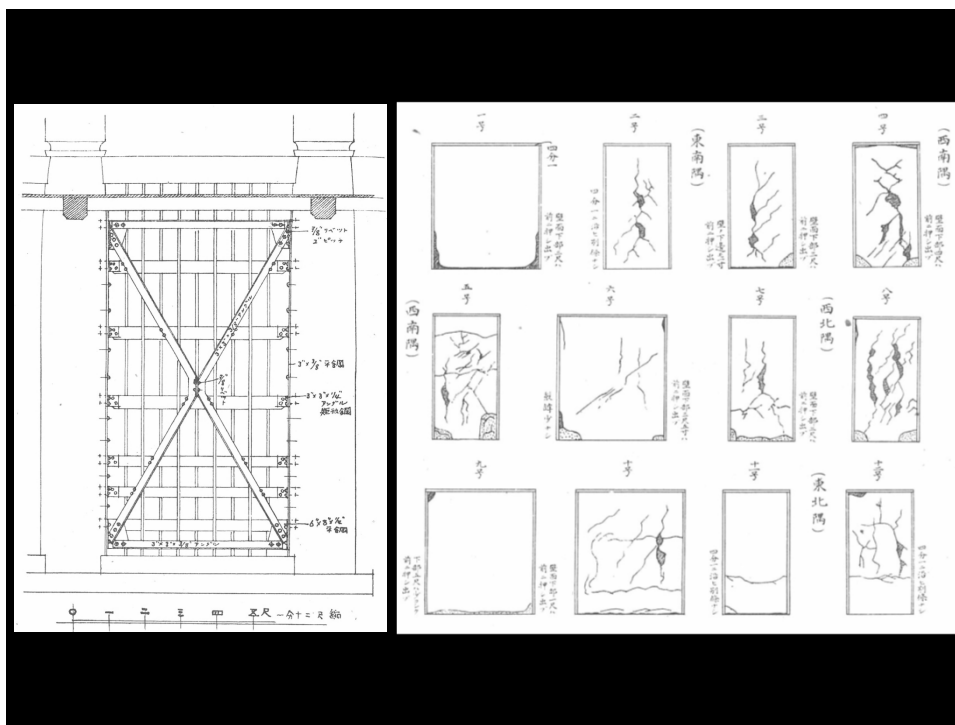


法隆寺金堂壁画 保存活用委員会について

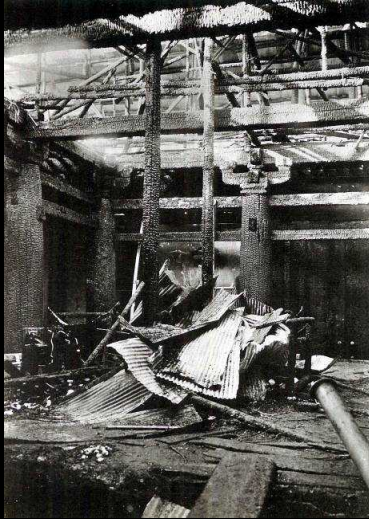
平成28年3月22日
古墳壁画の保存活用に関する検討会

- | | |
|-------------|------------------|
| 大正5年(1916) | 法隆寺壁画保存方法調査委員会 |
| 大正8年(1919) | 同報告書刊行 |
| 昭和9年(1934) | 法隆寺国宝保存事業部設置 |
| | 昭和大修理開始 |
| 昭和13年(1938) | コロタイプ印刷による複製製作 |
| 昭和14年(1939) | 法隆寺壁画保存調査会 |
| | 歴史、美術、保存科学による総合的 |
| | 保存対策調査 |
| 昭和15年(1940) | 壁画模写事業開始 |



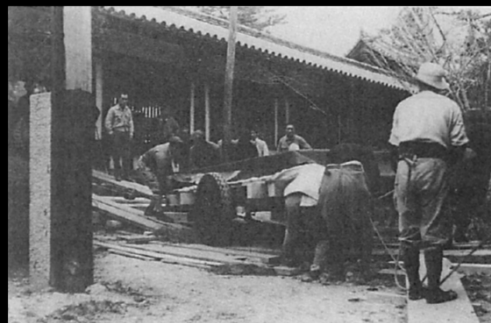
昭和20年(1945) 金堂解体修理開始

昭和24年(1949) 法隆寺金堂火災



昭和29年(1954) 焼損壁画等、収蔵庫へ移動・保管

昭和33年(1958) 法隆寺壁画、重文指定



1. 法隆寺焼損金堂建築部材

- ・炭化した状態で収蔵庫内に組み立てられて保管
～保存処理の現状

- ・鉄骨による強固な固定処置
～現状では極めて安定
～移動はほぼ困難



2. 法隆寺諸堂の建築部材

- ・解体修理によって取り外された部材
～整理され、大量に保管
～活用の可能性はないか？
- ・未整理状態の部材
～収納スペースの課題



3. 法隆寺金堂外陣焼損壁画(大壁、小壁)

- ・保存環境

- ～ホコリ、カビの懸念

- ・強固な固定処置

- ～現状では極めて安定

- ～移動はほぼ困難





4. 法隆寺金堂外陣焼損壁画(残片)

- ・採取場所ごとに整理され保管
 - ～保存処置の必要性再検討
 - ～学術的調査対象の可能性再検討



5. 法隆寺金堂内陣小壁画(飛天図) 20面

- ・焼損を被っていない壁画
 - ～火災前の取り外し以降、保存処置が不十分か？
 - ～高松塚古墳壁画等と同時期の伝世作例
- ・生物被害(虫損)の懸念
 - ～構造的に弱体化している危険性



約 7 0 cm × 1 4 0 cm



6. 法隆寺五重塔旧壁画

- ・昭和22年に白漆喰の下から6面を再発見
- ・状態が不安定なまま収蔵庫内に保管
 - ～保存処置は十分なされているか？
 - ～学術的な調査・研究の必要性は？



7. 法隆寺焼損金堂収蔵庫

・収蔵庫の老朽化(昭和27年竣工)

～改修(補強)の必要性

～移築(新築)等の可能性



今後の保存、活用計画

～現状は、部材保管庫

～保存環境を整え、収蔵庫としての機能充実

～展示機能を付加して公開の可能性も検討

委員会の下にワーキングを設置

保存環境／壁画材料調査／美術史調査／

アーカイブ／建築部材／